

◎瀬戸内国際芸術祭 2016×三越伊勢丹 コラボエキジビション

Featuring 猪熊弦一郎

猪熊弦一郎が瀬戸内国際芸術祭 2016 の参加作家の一人に選ばれたことを受け、瀬戸内国際芸術祭 2016 のプロモーションパートナーである三越伊勢丹が、コラボエキジビションの一つとして、猪熊弦一郎を取り上げることとなりました。

猪熊がデザインした三越包装紙「華ひらく」と、開館 25 周年を迎える丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の 2 つを軸に、日本橋と銀座、高松の 3 店舗で猪熊が紹介されます。

この他、「華ひらく」アートをあしらったさまざまなコレクションも三越各店舗にて販売されます。

三越包装紙「華ひらく」

1950 年に猪熊がデザインしたものです。その年のクリスマス用にと企画されましたが、戦争が終わって世の中が元気を取り戻しつつも、まだ暗さが残っていたこの時期、「スキヤパレリレッド」という鮮やかな赤一色で、丸みを帯びた柔らかな抽象形が描かれた斬新なデザインは、暮らしに明るさをもたらし、多くの人々の心に響きました。結局そのまま使われることとなり、半世紀以上経った現在も親しまれ続け、三越の代名詞的な存在となっています。

展示では、包装紙の原画やモチーフとなった「石」に加え、猪熊自身の生活を彩っていたゆかりの品々も並びます。さらに、写真家のホンマタカシが「華ひらく」をモチーフに、東京と香川で撮り下ろした新作も展示されます。また、高松三越隣接の丸亀町壺番街前ドーム広場に「華ひらく」立体巨大アートが出現します。



ホンマタカシ《三越包装紙》2016 年 ©Takashi Homma

猪熊弦一郎と「華ひらく」展

2016年3月30日（水）～4月5日（火）

日本橋三越本店 本館1階 中央ホール（入場無料）

猪熊弦一郎と「華ひらく」展

2016年3月29日（火）～4月11日（月）

高松三越 本館1階 エントランスロビー（入場無料）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 開館25周年記念展

2016年4月5日（火）～4月10日（日）＊最終日17時終了

高松三越 新館5階 催物会場（入場無料）

猪熊弦一郎ミュージアムグッズ

2016年3月30日（水）～4月5日（火）

日本橋三越本店 本館1階 中央ホール（入場無料）

2016年3月30日（水）～4月5日（火）＊最終日18時終了

銀座三越 7階 ギャラリー（入場無料）

2016年4月5日（火）～4月10日（日）＊最終日17時終了

高松三越 新館5階 催物会場（入場無料）

作家プロフィール

猪熊弦一郎／Genichiro Inokuma

- 1902 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1921 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）を卒業。
- 1922 東京美術学校（現 東京藝術大学）西洋画科に進学。藤島武二教室で学ぶ。
- 1926 帝国美術院第 7 回美術展覧会に初入選。以後、第 10 回、第 14 回で特選となるなど、1934 年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1936 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938 フランスに遊学（1940 年まで）。アンリ・マティスに学ぶ。藤田嗣治と知り合い、交流を深める。
- 1950 **三越包装紙「華ひらく」をデザインする。**
慶應義塾大学壁画《デモクラシー》及び名古屋丸栄ホテル壁画《愛の誕生》に対し第二回毎日美術賞を贈られる。
- 1951 国鉄上野駅中央ホールの大壁画《自由》を制作。
- 1955 再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約 20 年間同地で制作する。渡米をきっかけに抽象画を描くようになる。
- 1958 **香川県庁舎一階ロビー壁画《和敬清寂》を制作する。**
- 1973 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1975 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- 1989 丸亀市へ作品 1000 点を寄贈。
- 1991 **11 月 23 日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（MIMOCA）が開館する。**
- 1992 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。
以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993 東京にて逝去。90 歳。



猪熊弦一郎 撮影：高橋章